

発 言 通 告 書

発言者氏名	青木哲正
発言の会議	平成29年 2月28日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 法人市民税について

- (1) 施政方針での「法人市民税などの大幅な減収」という表現について
 - ア 具体的な項目と金額を伺う。
 - イ 減収となった原因をわかりやすく説明願いたい。
 - ウ 減収の傾向は来年以降も続くのか。
 - エ 吉田市政の8年間で本市から出ていった企業は何社あるのか。

2 施政方針の基本的な姿勢について

- (1) 幹部職員の中途退職について
 - ア 多くの幹部職員が中途退職したことが行政の継続性と人材育成に及ぼした影響ははかり知れないものとするが、「人づくり」とは何を指しているのか。
- (2) 町内会・自治会への支援について

- ア 「地域のために取り組んでいる方を支援」という言葉は、町内会等に過度な負担をかけている現状とかけ離れていると感じるが、負担軽減に向けて方針を変更する考えはないのか。あるいは、その実態も把握していないから対応ができないのか。
- イ 浦賀奉行所跡地に関する地域からの要望と西地区の町内会館隣接地に関する地域からの要望への対応が異なる理由について

3 施設配置適正化計画の方針転換について

- (1) 施設配置適正化計画に掲載されている万代会館、市民活動サポートセンター及び天神島ビジターセンターの3施設の方針が転換された。

ア 市長は施設配置適正化計画を本気で実行するつもりだったのか。あるいは、個別の案件をその利用者の方々と話し合っていくという考えなのか。

4 中学校完全給食について

- (1) 市長はこれまで、財政規律を守るために完全給食を実施しないと発言していたが、昨年2月の施政方針で突然の方針転換を行った。

ア 中学校完全給食の実施は、市長が得意な財政規律のバランスの枠から外れるものなのか。

5 学校教育における学力向上について

- (1) 平成25年から26年にかけて行われた「横須賀市児童生徒健康・体力向上推進委員会」の成果発表には多くの教員から賛同する意思が感じられたが、その後の教育委員会の取り組みが見えてこない。

ア 子どもたちの学力向上には、健全な体力向上が基礎となるという方向で取り組みが進められているのか。

イ 本質的な取り組みがなされないまま周りの環境を充実させようとしても、学力向上には結びつかないのではないか。

6 以前から言及しているテーマに新しい表現を使うことについて

(1) 今回の施政方針では、人口減少に対して「社会減をゼロとする」、子育て政策に対して「待機児童ゼロを目指した取り組み」という部分が昨年と異なる表現となっている。

ア 極端な言葉を使うことで市民感覚を誤った方向へ誘導することになるとは思わないのか。

7 ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会について

(1) 同大会の実行委員会は複数の企業と自治体で構成されているが、開催地としての本市が運営面、資金面でイニシアチブをとっているのか疑問である。

ア それぞれのスポンサーが出資する金額は市の負担額よりも多いのか、少ないのか。

イ 平成 29 年度予算に計上された 1,000 万円は平成 30 年に行われる第 2 回大会に向けた費用と思われるが、市長はこの金額で十分だと思われているのか。

ウ せめてメインスポンサーと同額を本市が負担する気構えで臨んでいただきたいと考えるが、いかがか。